

学 園

地方競馬益金事業

題 字 岡山県知事 長野 士郎

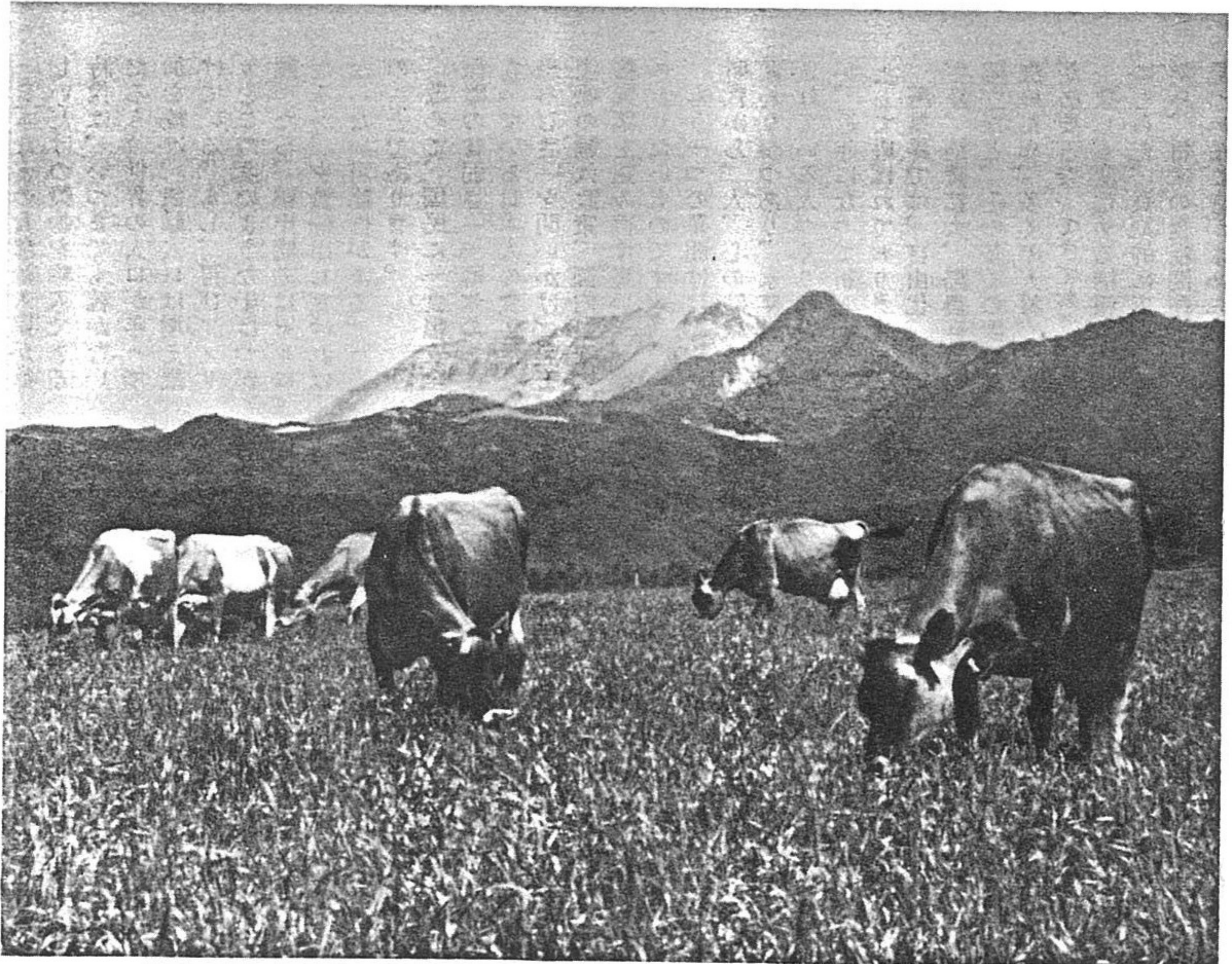
平成元年2月1日発行

財団法人

中国四国酪農大学校

電話(0867)66-3651

だ よ り



新しい時代の幕開け



校長 石田 正之

昭和の時代に終りをつけ、平成という新しい時代の幕開けを迎えております。

卒業生の皆様には、お変わりなくお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。

新しい時代の幕開けは、国際元年といわれるように、農業、畜産の自由化の流れでしょう。

最近、国が発表したわが国の食糧自給率は、飽食の時代が進む中で、五十%を割ったとされています。

先進国で自給率五十%以下を記録したのは、四十五年の英国(四十八%)だけで、英国はその後自給率の向上に努め、六十年には七十七%になっています。

比較的低いスイスでも六十五%を維持し、他の先進国はいずれも高い自給率を維持しており、日本の異常な低さが

目立っております。

牛肉、オレソジの輸入自由化を二年余りに控え、農畜産物の輸入は、今後も加速度的に増えることが確実で、日本の自給率は、ますます低くなる見通しであります。

昨年「世界のパンかごと」といわれるアメリカを大干ばつが襲い、この大凶作は穀物相場を高騰させ、穀物の三分の二をアメリカに頼る、食糧輸入大国のわが国を慌てさせています。

穀物の値上りは、日本国内にすぐ反映し、昨年七月には家畜用飼料が十%弱値上りし、十月には更に商社系が二度目の値上げを発表しました。この値上げは牛肉の自由化を控え、コストの引き下げに迫らされている、畜産農家に不安を与えております。

国連の調査機関によると、

「日本などの食糧輸入国が欲しいだけの穀物を輸入できる時代は、いつまでも続かないだろう。世界の人口が年々増加を続け、飢餓人口は増え続けていく。もし、再びアメリカをこの度のよう干ばつが襲ったら、輸出能力はゼロになるか、少量輸出しなければならぬ可能性がある。」とのことでもあります。

改めて、国民に「食糧安全保障の貧弱さ」「薄氷の上に立っている日本人の食生活の恐ろしさ」を問いかけ、農畜産物の輸入政策、国内農業の振興策を組み直す良いチャンスとしたいものです。

もう一つの幕開けは、物の時代から、人、心の時代へと変わりつつあり、永年云い古されている人づくりの重要性が、近年になって新しい課題として叫ばれております。

酪農界では、自由化、計画生産、消費拡大、酪農経営の確立など、その多くの課題解決のため、多くの人材づくりが必要となってきました。

激しく変化する情報を的確にとらえ、長期的に広い視野から、将来の食糧問題として見つめることが求められてお

ります。また、農業以外の知識や判断が重要な要素となり、一般社会に通用する感覚を持った人づくり、人間形成が望まれております。

国際的視野を持つことが、考える農業への道でもあり、国際的に通用する足腰の強い農業の確立、これこそ頭脳産業への脱皮でもあります。

世界に生きる日本農業は、人としての生き方に哲学を持ち、しっかりと農業の原点を見つめ、新しいものに挑戦する若者の精神を持ち続ける、しかも周囲に強烈なインパクトを与える青年が望まれております。

今年の本校での成人を祝う挨拶の中で、以上のような話を成人となった学生達に送りました。

再編期を迎えるわが国の酪農の中にあって、経営の質的改善、革新技術への対応と、多くの教育課題をかかえ、より一層の教育効果の向上をめざし、課せられた使命を果たすべく努力を続け、酪農大校における、教育改革元年として、新しい時代の幕開けとしたいものであります。

もくじ

● 巻頭言
新しい時代の幕開け

校長 石田正之…………… 2

● 飼料作物生育

収量調査報告(Ⅰ)…………… 3

● 教育制度の改正…………… 6

● 第一牧場だより…………… 8

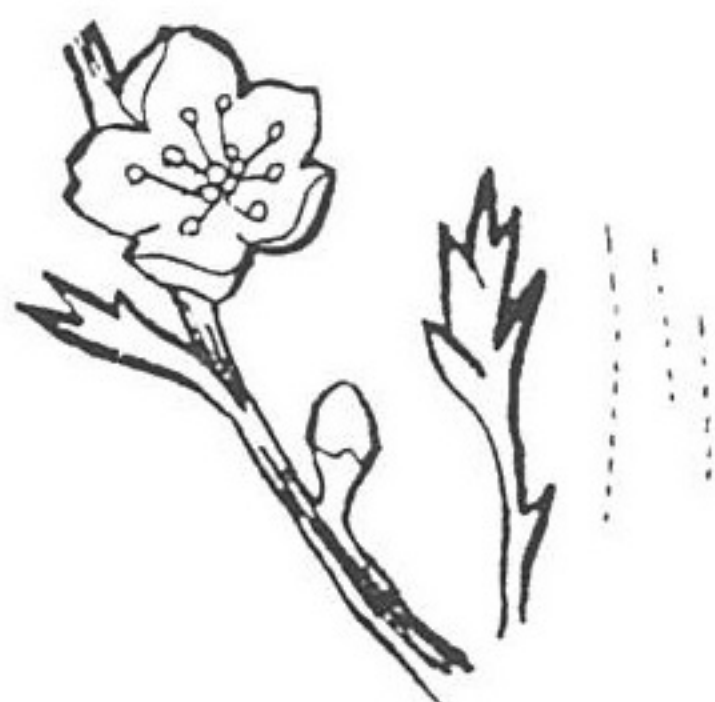
● 第二牧場だより…………… 9

● 教務課だより…………… 10

● 卒業生名簿…………… 12

● 人の動き…………… 12

● お知らせ…………… 12



飼料作物

生育収量調査報告〔I〕

酪農経営安定のために良質粗飼料の低コスト生産は不可欠であり、年間乾物量増収のための輪作体系が必要です。

その中で、夏作、秋冬作とも増収を期待するトウモロコシ、イタリアンライグラスの輪作体系が一般的となっており、それぞれの優良品種の選定が重要となってきます。

そこで、昭和六二年一〇月から昭和六三年九月にかけて、トウモロコシ及びイタリアンライグラスの生育調査、収量調査を実施しましたのでその結果を報告します。

〔トウモロコシ〕

試験方法

1 供試品種

雪 印

P 3 7 3 2

P 3 3 5 8

G 4 6 1 4

P 3 1 6 0

E 7 3 2 1

N S 6 8

D K 7 8 9

D K 6 9 8

X L 6 1

三井東庄
日本総業
カネコ

⑥ 収穫期

調査結果及び考察

(表二、図一のとおり。)

1. 発芽ではP 3 7 3 2とN S 6 8が他の品種に比べてやや劣っていた。
2. 七月、八月と、平年に比べ降水量が多くなったが、全体的にどの品種も生育は良好であった。
3. 雄穂抽出期は、七月二五日から八月四日まで、雌穂抽出期は、七月三一日から八月一日までであった。
4. 刈り取りは、九月二日から九月一〇日の間で行ない、熟期は糊熟期から黄熟期であった。
5. 桿径はどの品種も一般的に細かったが、他の品種に比べP 3 7 3 2、G 4 6 1、4、X L 6 1は比較的太かった。
6. 着雌穂高、草丈については、やや低いP 3 7 3 2を除けばほぼ同じであった。ただし、N S 6 8、X L 6 1、タカネミドリは草丈に対して着雌穂高が低く、倒伏に強いものと考えられた。
7. 収量については、D K 7

8 9、G 4 6 1 4、D K 6 9 8、P 3 1 6 0が比較的多収であった。

前作はイタリアンライグラスであった。

② 播種期

昭和六二年一〇月二八日

③ 播種量

〇・三kg/a

④ 播種法

全面散播

⑤ 施肥量

表三のとおり。

⑥ 収穫期

出穂期刈り取り。

調査結果及び考察

(表四、図二のとおり。)

- 1 昭和六二年一〇月二八日に播種し、十一月六、七日に発芽期に達し、播種から発芽まで九、一〇日間を要した。

2 試験区

一区六²m²(三m×二m)

三反復で配置した。

3 耕種概要

① 耕起、碎土、整地

マニユアスプレッダーで

堆肥を全面散布後、全面耕

起、碎土、整地を行ない、

一a当り堆肥二〇〇kgをす

きこむ。

③ 栽植密度

畝幅七〇cm、株間一八cm

で一カ所二粒点播し、間引

きして一カ所一本立てにし

た。(一a当り七九四本)

④ 施肥量

表一のとおり。

⑤ その他の管理

除草剤は散布せず、生育

途中に畝間を手で除草した。

雪 印

タチワセ

エース

ワセアオバ

2 試験区

一区六²m²(三m×二m)

三反復で配置した。

3 耕種概要

① 耕起、碎土、整地

マニユアスプレッダーで

堆肥を全面散布後、全面耕

起、碎土、整地を行ない、

一a当り堆肥二〇〇kgをす

きこむ。

2 播種期

六月から七月にかけては、

雨の日が続いたため収穫が

遅れ、収穫時に倒伏してい

る物が多かった。特にカネ

コジャイアント、タチワセ、

ワセアオバについては倒伏

が激しかった。

3 収穫期

収穫は五月、七月、八月

の計三回実施した。
 一回目の収穫ではワセキングが、三回合わせての収穫ではテトリライトが最も多収であった。
 4 エバーグリーンの一回目、三回目、カネコジャイアントの三回目については生育不良のため収穫できなかった。
 以上トウモロコシとイタリアンライグラスの生育収量調査結果をお知らせしましたが、今回は単年の成績であり、成績の信頼度も十分とは言えません。
 今後も数年間、これらの品種について試験を実施し、結果がまとまりましたら再度学園だよりで報告したいと思えます。
 現在、皆様が使われている飼料作物の品種で、この品種をつくってみたが、どうだったかという話があればお知らせください。学園だよりを情報交換の場にしたいのでよろしく願います。

表2 トウモロコシ生育調査結果

品 種	発芽期	発芽の良否	初生期	雄抽出期	雌抽出期	穂期	収穫時期	熟 度	桿 径 (mm)	草 丈 及 び 着 雌 穂 高 (cm)		生草収量 (kg/a)	
										着雌穂高	草丈	茎葉	雌穂
P 3 7 3 2	5月30日	やや良	良	7月25日	7月31日	9月 8日	黄熟期	21	108	275	308	148	456
P 3 3 5 8	5月30日	良	良	8月 4日	8月11日	9月 8日	糊熟期	16	132	296	452	175	627
G 4 6 1 4	5月30日	良	良	8月 4日	8月10日	9月10日	糊熟期	19	136	296	526	180	706
P 3 1 6 0	5月30日	良	良	8月 4日	8月11日	9月10日	糊熟期	17	133	296	489	183	672
E 7 3 2 1	5月28日	良	良	8月 2日	8月 7日	9月 9日	黄熟期	16	132	304	408	190	598
N S 6 8	5月30日	やや良	良	7月25日	8月 1日	9月 8日	黄熟期	17	112	297	407	186	593
DK 7 8 9	5月30日	良	良	8月 1日	8月 6日	9月10日	糊熟期	16	128	286	554	172	726
DK 6 9 8	5月30日	良	良	8月 1日	8月 7日	9月 8日	黄熟期	16	126	288	479	194	673
X L 6 1	5月30日	良	良	7月27日	8月 1日	9月10日	黄熟期	20	110	296	422	183	605
T X 7 4	5月30日	良	良	7月31日	8月 6日	9月10日	糊熟期	17	125	281	473	177	650
タカネワセ	5月27日	良	良	7月25日	7月31日	9月 2日	黄熟期	17	129	280	344	214	558
タカネミドリ	5月28日	良	良	7月26日	8月 1日	9月10日	黄熟期	16	100	289	398	185	583

表4 イタリアンライグラス生育調査結果

品 種	発芽期	利用期間(刈取期)				倒 伏			草 丈 (cm)			生草収量 (kg/a)				
		5月	6月	7月	8月	9月	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	1回目	2回目	3回目	合計
メリット	11月6日	26	7	2			無	少	無	89.8	95.3	69.3	214	218	43	475
ミドリホープ	11月6日	27	7	2			無	中	無	82.4	104.0	73.6	116	229	47	392
カネコジャイアント	11月6日	26	6				中	多	—	89.9	96.3	—	239	148	—	387
エバーグリーン	11月6日		7				—	少	—	—	95.3	—	—	193	—	193
トッ プ	11月7日	28	7	8			無	少	無	81.7	95.4	75.4	163	214	118	495
ヒーロー	11月6日	27	7	11			無	中	無	83.6	100.8	83.2	133	261	152	486
タキイジャイアント	11月6日	29	7	8			無	中	無	89.9	106.3	67.5	170	225	89	484
ワセキング	11月6日	27	7	2			少	中	無	95.2	100.2	79.8	236	228	61	525
テトリライト	11月6日	31	7	11			無	少	無	93.9	95.9	74.1	178	231	134	543
タチワセ	11月7日	26	7	2			無	多	無	108.6	99.5	62.7	199	130	20	349
エース	11月7日	27	7	2			無	中	無	77.8	98.4	62.3	143	221	76	440
ワセアオバ	11月7日	26	7	2			少	多	無	96.3	99.7	66.0	181	143	29	353

図1 トウモロコシ収量

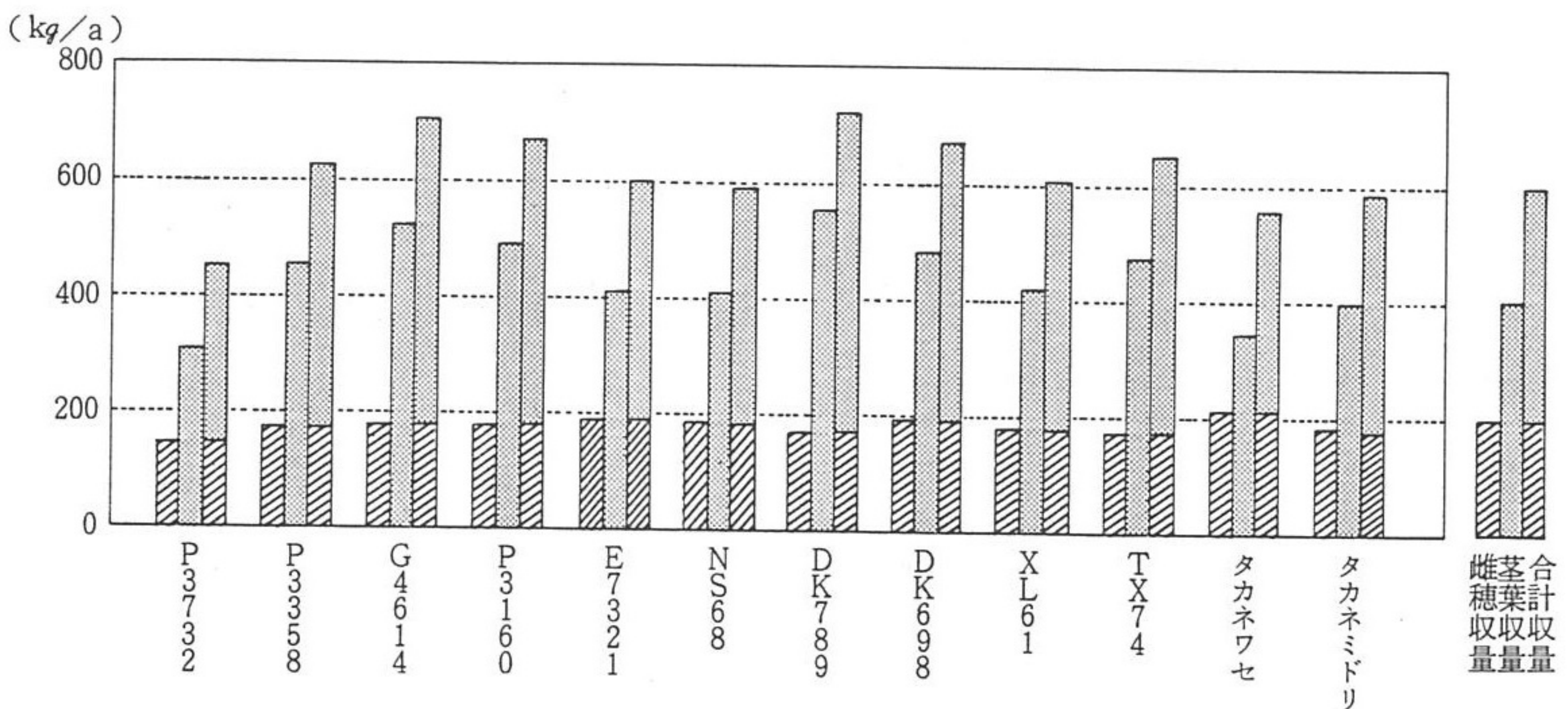


図2 イタリアンライグラス収量

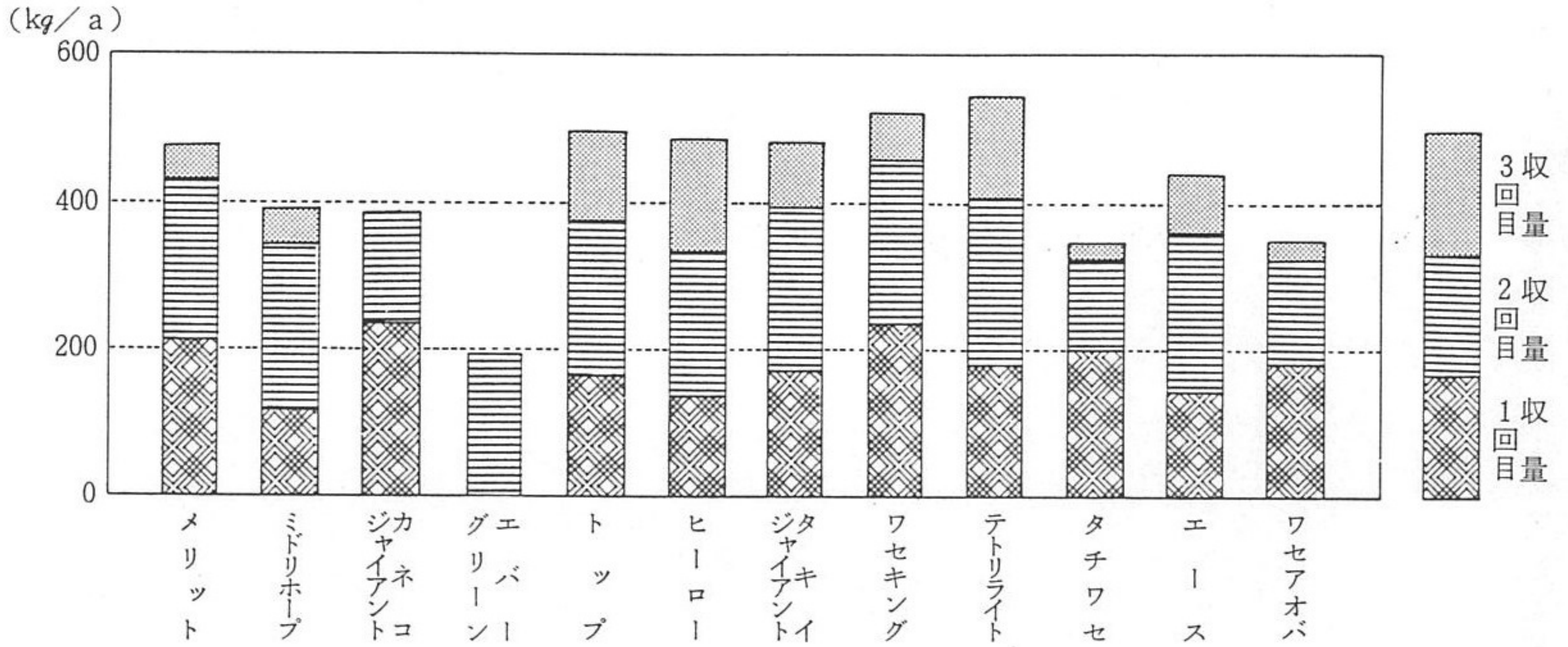


図3 気 温

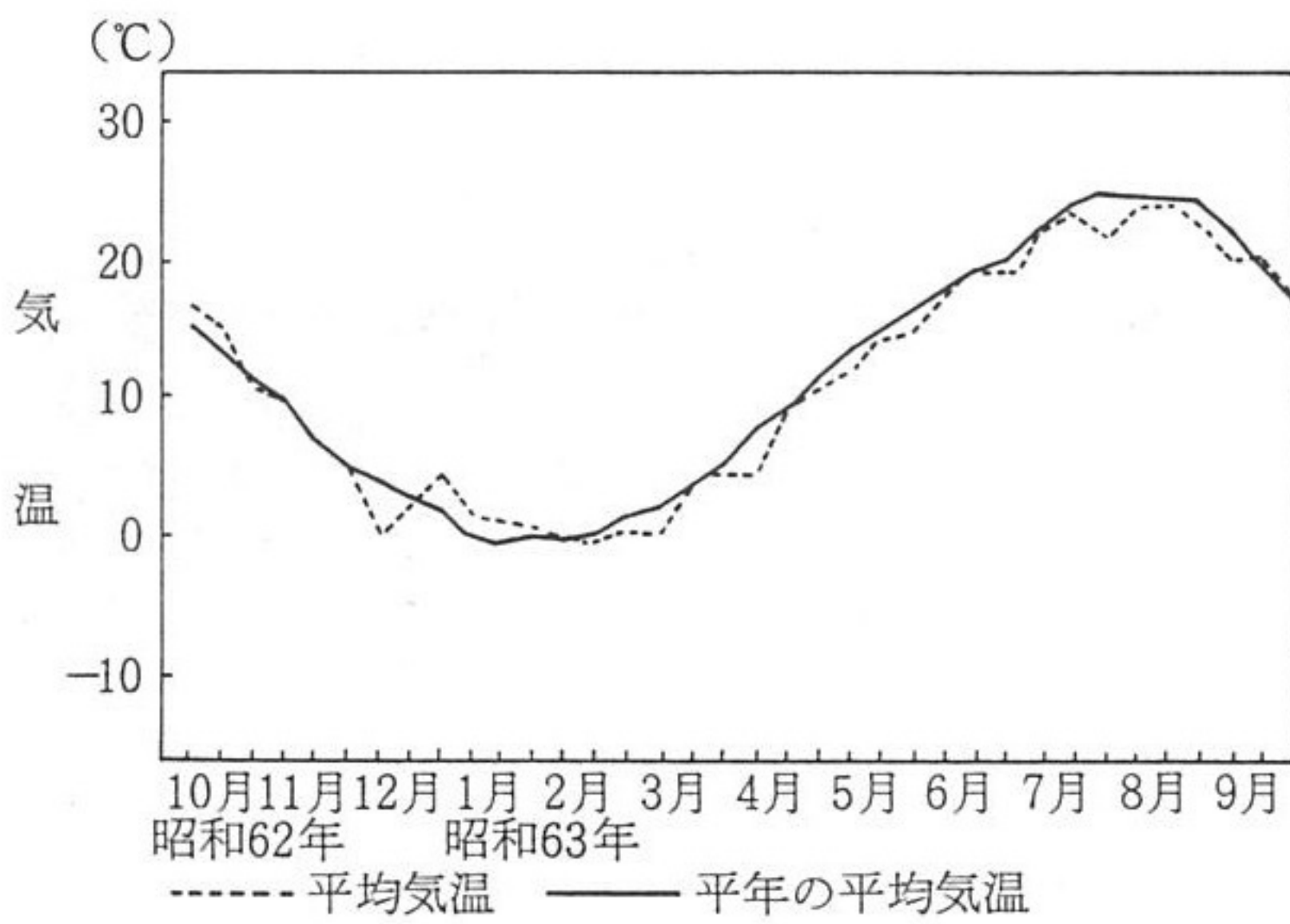


表1 トウモロコシ施肥量

	溶磷	複合 磷加 安	尿素	塩加 カリ	肥料成分			備 考
					N	P	K	
基肥	3.0	8.0			1.12	1.24	1.12	
追肥			2.2	1.7	1.0		1.0	7月11日

表3 イタリアンライグラス施肥量

	苦土 石灰	苦土 重焼 磷	牧草 259	尿素	塩加 カリ	備 考
基肥	16	32	12			
追肥				2	2	各刈取り毎

図5 日照時間

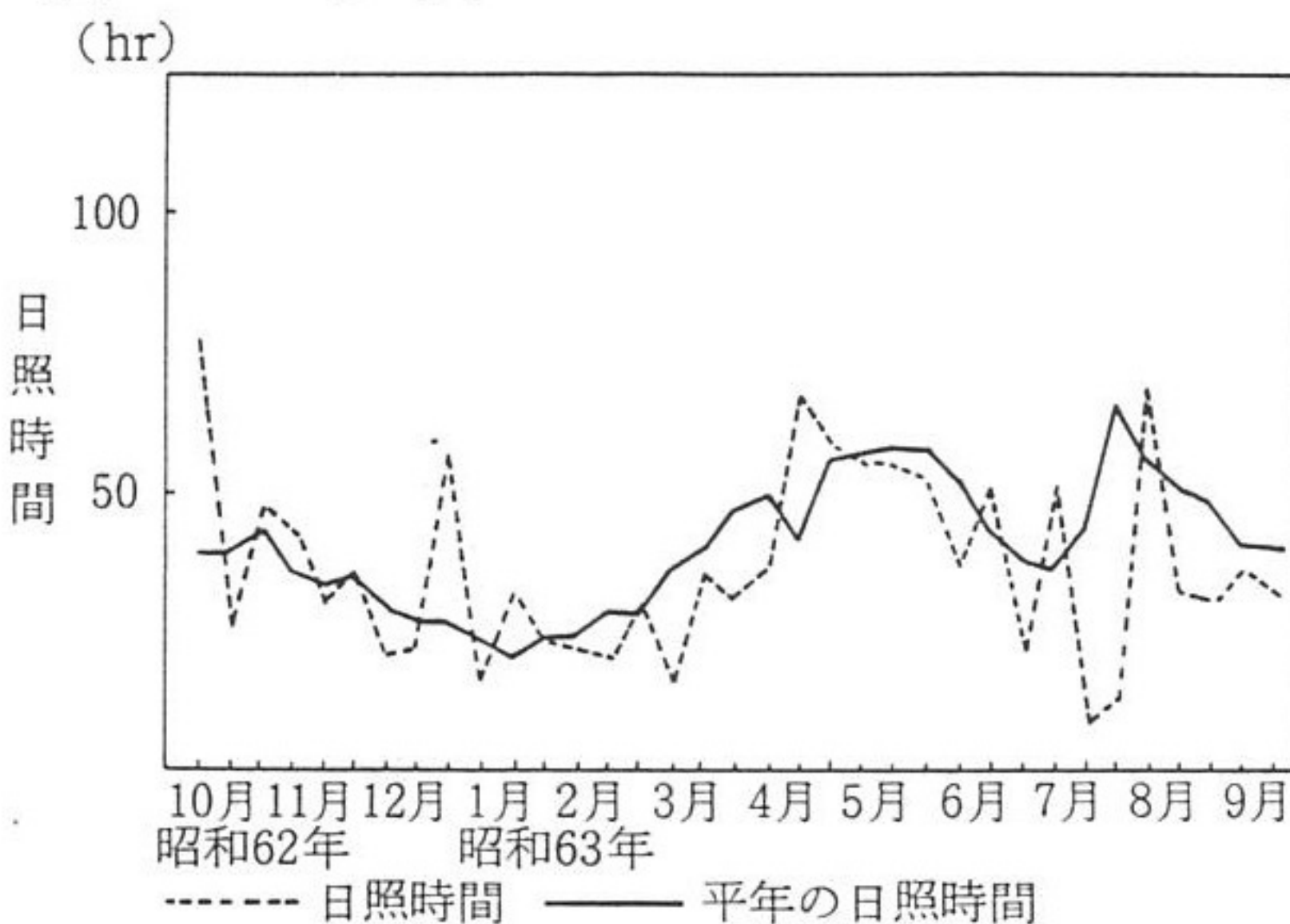
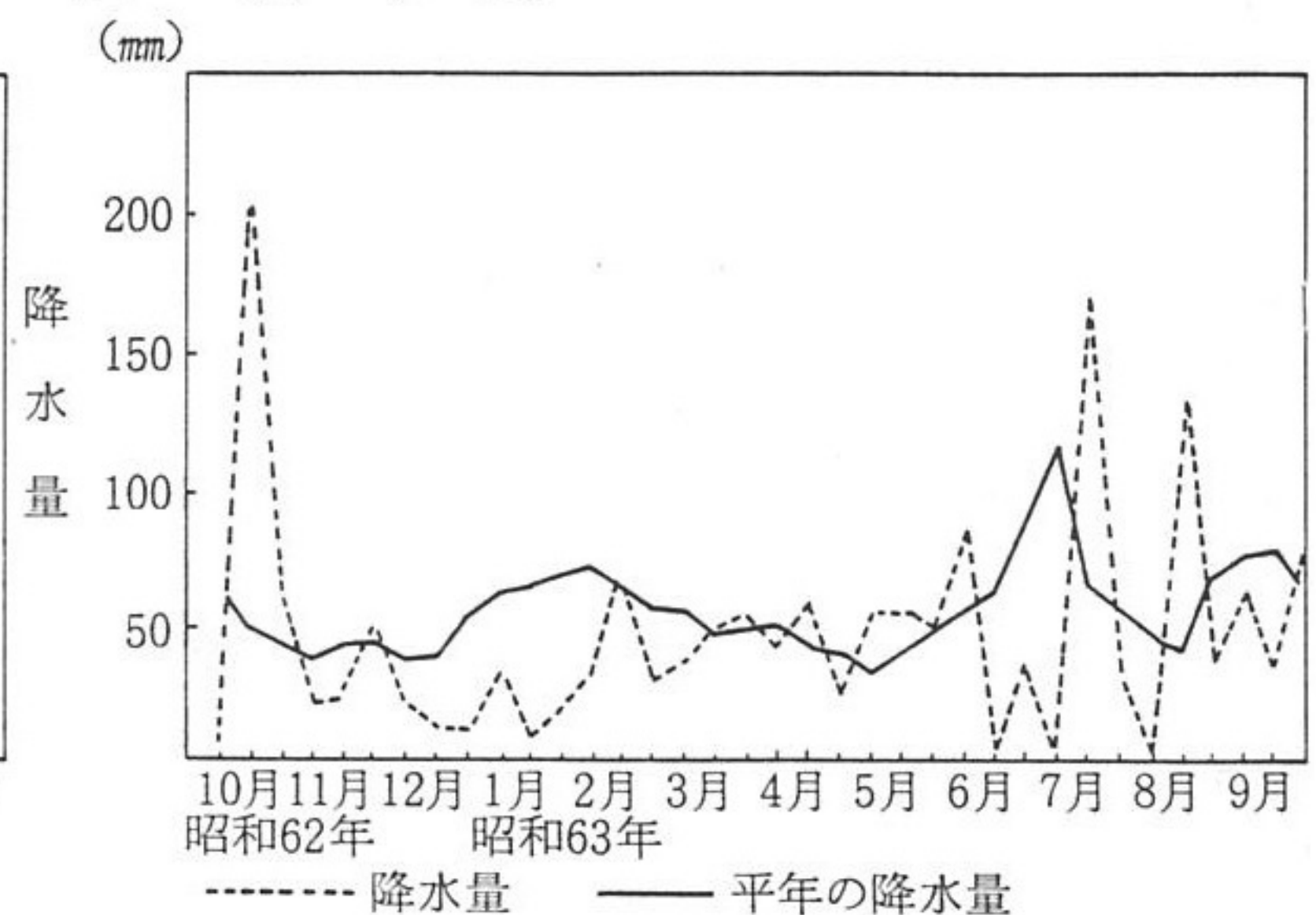


図4 降 水 量



教育制度の改正

本校は昭和四〇年一月に、企業としての酪農技術を習得させる目的で、中国四国および兵庫県の十県を対象として設立されて以来、酪農経営の近代化に即応し、高度な技術を身に付けた優秀な酪農家を、付属牧場を利用した実践教育により養成すべく二三年間努力して参りました。

しかしこの間、牛肉をはじめとする農畜産物の輸入自由化など、国際情勢や酪農を取り巻く環境は大きく変化し、経営管理技術一つにおいても、農業機械の大型化や近代化、受精卵移植をはじめとするバイオテクノロジーやコンピュータ利用などが、近代的な酪農経営の必須課題となって参りました。

このため本校では、既存の教育体系をこれら時代の要請に答える教育内容に強化するため、昭和六二年度において教育規程の見直しに着手しました。

改正に当っては、大学や酪農家をはじめとする本校関係

者や、卒業生から広く求めた意見を参考に原案を作成し、昭和六三年五月三十一日に開催された理事会において次のとおり承認されました。

主な改正事項

別表一のとおり。

改正のねらい

一 教育体系の改正

① 校内の教育期間を、現行の一・二カ月間から一・六カ月間に延長し、一年生の一年間を基礎学習、二年生の四カ月間を応用学習期間とすることにより教育内容の充実を図る。

② 一年生の一年間を全て校内教育とすることにより、一年を通じての作物栽培管理、飼養管理の習得、学生の飼養管理実習、牧場経営への意欲的な参加を図る。更に、基礎的な知識、技術を習得した後、先進酪農家等における体験学習に臨むことにより、本来の研修成果を上げようとする。

二 教育内容の充実

(表二参照)

① 一年生の一年間は基礎学習期間とし、酪農経営に必要な基礎的な技術、知識を、実践により習得させるため、更に演習科目の充実を図る。

② 二年生の四カ月間は基礎学習、実務研修で得たものの体系化の期間とし、農業簿記、酪農経営診断演習、手づくり乳製品の製造、コンピュータ利用等の応用科目を行なう他、受精卵移植技術など新技術への対応を図る。

③ 余裕ある実習時間を確保することにより、実習が単なる作業でなく講義内容の実践確認、管理内容の習熟高揚の場となるよう配慮する。

④ 時代の要請である家畜人工授精および家畜受精卵移植講習会の受講、大型トラクターおよび大型トラクター牽引免許試験を受験し、酪農経営に必要な資格の取得を行なう。

⑤ 従来の校内教育に加え、広く校外に教育の機会を求め、畜産研究施設、関係団体、畜産物の加工流通機構

の視察や優良農家との交流により、学生に更に広い知識や技術を習得させる。

今後の課題

この度、教育内容の充実を図るべく、教育体制の改正を実施いたしました。今後とも関係者の皆様の御期待に答える酪農後継者を養成していくためには、より一層の教育内容の充実を図ると共に、学生が自主的に「酪農への夢」を持って勉強できる近代的な機械施設の整備についても、

逐次努力していかねばなりません。このためには、職員は一丸となって努力する所存でございますが、関係県、卒業生、研修農家をはじめとする関係者皆様の御協力が不可欠なことは申すまでもございません。どうか、教育体制の改正に対しまして御理解を賜わると共に、今後とも本校の教育事業に対しましては、より一層の御協力、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



酪農機械演習風景(イタリアン刈取)

表 1 主な改正事項

(1) 修業期間の変更(教育規程第3条)

	(現 行)	(改正後)
1) 講義及び実習	1年間	1年4カ月間
1年次	入学した年の4月1日～9月31日	4月1日～翌年3月31日
2年次	2年目の10月1日～翌年3月31日	12月1日～翌年3月31日
2) 実務研修		
校内研修	2カ月	2カ月
校外研修	10カ月	6カ月

	1年	2年
現 行	6カ月 講義・実習	12カ月 酪農実務研修 (内2カ月校内研修)
改 正 後	12カ月 基礎学習 (講義・実習)	8カ月 体験学習 (内2カ月校内研修)
		4カ月 応用学習 (講義・実習)

(2) 単位の変更(教育規程第6条)

	現 行	改 正 後
学 科	780時間 22単位	1,020時間 26単位
実 習	1,320時間 22単位	1,560時間 26単位
校 内 研 修	360時間 6単位	360時間 6単位
校 外 研 修	10カ月 5単位	6カ月 3単位
計	2,460時間 10カ月 55単位	2,940時間 6カ月 61単位

表 2 教育内容の充実

(1) 講義の充実

次の科目の時間数を増加する。

- 農業簿記
- 飼料作物
- 家畜改良及び繁殖(受精卵移植)
- 飼養管理(コンピューター利用)
- 特別講義(受精卵移植講習会)

(2) 演習の充実

新設

- 受精卵移植演習
- 乳製品製造演習

時間数の増加

- 酪農経営診断演習
- 牧草飼料作物演習
- 飼養管理演習
- 酪農機械演習(大型農業機械操作の習熟)

(3) 資格、免許の取得

現行

- 大型トラクター免許
- 家畜人工授精師免許

新設

- 大型トラクター牽引免許
- 家畜受精卵移植免許

(4) 研修事業の充実

- 校外実務研修成果発表会
- 酪農及び肥育経営の視察及び実態調査
- 畜産研究施設、関係団体、畜産物の加工流通機構の視察
- 乳牛審査競技会への参加
- 乳牛共進会の見学
- 乳牛動態調査及び発表会の開催
- 卒業論文発表会の開催



卒業生の皆さん、お元気で
お過ごしですか。

改元明けの冬は昨年以上に
雪が少ないうえに、異常な程
の暖かさで、毎日の作業を行
う点ではおおいに助かってい
ますが、スキー中毒の若い先
生や学生さんには不完全燃焼
の日々が続いております。

さて第一牧場では、五月の
職員異動で馬場先生が高梁家
畜保健衛生所へ転勤となりま
した。後任として新進気鋭の
竹内先生が転入され、牧場職
員はもとより、教務課の協力
を得ながら頑張っていますの
で、お近くにおいでの際は気
軽にお立寄りください。

○飼養状況

平成元年二月一日現在の飼
養頭数は、表一に示している
ように搾乳牛、乾乳牛合わせ
て二九頭、未經産牛八頭、育
成牛二一頭、飼直し牛三頭、
肥育牛七一頭の合計一三四頭
になっており、昨年と比較し
て肥育牛が大幅に増えており
ます。

○生乳生産状況

生乳生産状況を表二に示し
ました。昭和六一年度より生
乳生産量割当が実施されたた
め、昭和六二年度は一日平均
搾乳牛頭数を前年度より三・
二頭減らしましたが、一日一
頭当り搾乳量が一・四kg増え
ているため、年間生産量は前
年度と変わらない数値となっ
ています。

また、昭和六三年六月一日
より乳価の決定が乳価テーブ
ル方式となり、高品質乳の生
産がさらに求められるように
なりました。昭和六二年の牛
群検定では、牛群平均乳脂率
が三・七%、無脂固形分率が
八・八%であり、乳脂率に
ついては牛群改良等の改善を
進める必要があります。

○肥育牛舎の新設

第一牧場では、今年度、乳
肉複合経営教育の一環として、
肥育牛舎二棟(肥育前期用(一
四五・九八㎡ 木造) 肥育
後期用(三三五・五〇㎡ 鉄
骨)が新設され、従来第一
牧場、第二牧場で別々に行わ

表2 生乳生産状況

	61年度	62年度
1日平均搾乳牛頭数(頭)	29.7	26.5
1日平均搾乳量(kg)	564.6	568.4
1日1頭当たり搾乳量(kg)	19.0	21.4
年間生産乳量(kg)	206,218.4	207,844.0

表1 飼養頭数

(平成元年2月1日現在)

搾乳牛	乾乳牛	小計	未經産牛 (19ヶ月以上)	育成牛			飼直し牛	肥育牛	合計	
				12ヶ月	6ヶ月	6ヶ月未満				
27	2	29	8	16	5	2	31	3	71	134

○ロールベールサイレージの調製
昨年十二月、三牧区(一・八ha)に作付けされたイタリ
アンライグラスについて、試
験的にロールベールサイレー
ジを調製しました。季節柄、
予乾が全く不可能であり、極
めて高水分(推定八〇%以上)
であったため、五梱包(ビニ
ール梱包三個、カプセルサイ
ロ二個)を調製するにとどめ
ましたが、いずれも予想以上



カーフハッチと肥育牛舎(鉄骨)

れていた肥育部門は、第一牧
場に統合して充実した教育を
実施することになりました。
近い将来の牛肉輸入自由化を
控え、肥育牛生産技術教育の
実践教育が可能になりました。

○生乳処理室の改修

従来から傷みの激しかった
生乳処理室の内装を改修する
と共に、灯油ポイラー一機を
設置しました。
内装については床面、壁面、
天井、窓等見違えるようにな
ったうえ、灯油ポイラーの設
置によって豊富な給湯が可能
になり、搾乳作業、パイプラ
イン洗浄が効率的に行えるよ
うになりました。

以上、第一牧場の近況をお
知らせします。



ロールベールサイレージ



卒業生の皆様、お元気でしようか。

第二牧場では、五月の職員異動で森本場長が真庭家畜保健衛生所へ転勤となり、後任として、長吉教育部長（第二牧場長業務）、長尾技師の二名が転入され、職員はもとより、学生諸君共々に一生懸命頑張っております。

○飼養状況

昭和六二年一二月からの牛舎改造により、管理体系はフリーバイン方式から七二頭スタンション方式に移行しました。また、第一牧場で肥育牛を一括して管理するため、一月より肥育牛の飼養がなくなりました。

昭和六四年一月一日現在の飼養頭数は表一のとおりで、経産牛八七頭、育成牛四四頭、

表 2. 牛群検定年間成績

(昭和61、62年)

	61	62
平均経産牛頭数(頭)	92.5	81.9
平均搾乳牛頭数(頭)	77.1	70.9
総乳量(kg)	336,409	329,309
経産牛1頭(kg)	3,638	4,020
搾乳牛1頭(kg)	4,361	4,644
総乳脂量(kg)	15,680	15,572
平均乾乳日数(日)	63	65
平均分娩間隔(日)	339	400
平均初産年齢	2才1月	2才3月
平均年齢	5才3月	5才
平均産次(産)	3.8	3.7

雄子牛一九頭、飼直し一頭の合計一五一頭となっております。昭和六二年の年間成績をみると、生産調整による成牛頭数の減少、平均産次、平均年齢の低下がみられます。この傾向はその後も続いており、昭和六四年一月一日現在では全牛群の六割を三産以下の牛で占め、牛群の若返りが進んでいます。

○生乳生産状況

牛群の年間成績を表二に示しました。

総乳量は三二万九千kgで、前年対比九七・八%とわずかながら低下しましたが、搾乳

牛一頭当り乳量、乳脂率は、それぞれ四六四kg（前年対比一〇六・五%）、四・七三%（前年対比一〇一・五%）と改善されております。

○施設改善状況

【牛舎改造】

フリーストールの牛舎をスタンション方式に改造し、七二頭繋養牛舎にしました。これにより個体管理が可能となり、さらにはパイプラインを設置したことにより、ミルクングパーラーの故障時においてもミルクカー搾乳が可能になりました。

表 1. 飼養状況

(昭和64年1月1日現在)

	搾乳牛	乾乳牛	小計	未經産(19カ月以上)	12~18カ月	6~11カ月	6カ月未満	小計	飼直し	合計
雌	78	9	87	9	13	8	14	44	1	132
雄				2			17	19		19
計			87					63	1	151

【取水道の新設】

これまでは明蓮川上流から取水していましたが、その一部五六五mを新設しました。今までの水源が極めて良好なことから、この水源から今後とも取水し、良質なジャージー牛乳の生産を維持することとしております。

【堆肥舎の増設】

既存堆肥舎を六三m増設し、冬期舎飼いに対応することになりました。

表 3. 産次別飼養頭数

(昭和64年1月1日現在)

産次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
頭数	24	12	16	10	4	6	9	3	3	87
比率	27.6	13.8	18.4	11.5	4.6	6.9	10.4	3.4	3.4	100.0

平均産次 3.5

【保護室改修】

既存保護室の柵場、哺乳室を改修し、衛生室の機能をここに集めました。

【コンピューターの設置】

事務所内にコンピューターコーナーを設け、合理的な飼養管理や経営改善に利用しています。

最後に、卒業生皆様が気軽にお立寄りいただけますよう、事務所内にもスペースを設けておりますことを申し添え、第二牧場だよりとします。

昭和六十三年

教務課だより

【二月】

○家畜受精卵移植講習会

昭和六十二年一二月から開催された家畜人工授精講習会に引き続き、二月二十五日から三月一七日まで家畜受精卵移植講習会が開催された。

受精卵移植という新技術への社会的責任の大きさから、試験問題も難しいものとなったが、本校からは第二二期生九名が受講し六名が合格した。



卵子はどこかいな？

○テレビ、ビデオデッキ寄贈

ホクラク農業協同組合が組織する財団法人ホクラク教育振興会から、酪農後継者の養成と教育の振興を図る目的で、二九型カラーテレビとハイファイビデオデッキが本校に寄贈された。

これにより、現在進めている視聴覚教育も一段と強化されることになった。



【三月】

○卒業証書授与式

三月二十五日、第二二期生の卒業証書授与式が挙行された。卒業生を代表して柴田文弘君が答辞を読み上げ、希望に燃える若者一七名が本校を巣立っていった。



校長表彰

【四月】

○第二四期生入学式挙

四月五日、新たな時代の酪農を担う若者二六名が入学した。新入生の出身地は中国四国及び兵庫県の各構成県に加え、遠くは岩手、千葉、静岡、大分など全国に及んだ。

【五月】

○トウモロコシ試験圃場設置

トウモロコシ種子一二品種について、蒜山に適する品種の選定を行うため、牧草飼料作物演習の一環として前年に引き続き試験圃場を設置した。成績の詳細については二ページのとおりです。



欠株への移植

○酪農機械演習

学生に大型農業機械操作を習熟させるため、酪農機械演習として、圃場におけるトラクターを使った一連の作業を学生に実施させた。最初はまっすぐに走らなかつたトラクターも、運転を重ねるにつれ若者らしくメキメキと上達した。



前どいてー!!
私は天下の女性ドライバー

【六月】

○テレビ取材

今年も多くのテレビ局が取材に訪れたが、牛肉の輸入自由化問題をテーマとした西日本放送の取材「畜産最前線」では、学生にもインタビューが行われた。

取材を受けた学生は、「輸入牛肉に負けない良質の牛肉生産を行いたい」「消費者と手を結び、観光を取り入れた酪農経営を行いたい」など、将来の畜産経営について抱負を述べていた。



これがF₂か（中央牧場視察）

○校外視察
広く校外に教育の機会を求めて、六月の雪印乳業津山工場を手始めに、七月のハム工場、十一月の家畜市場、種雄牛センター、畜産農家など多くの施設の視察を行った。



トウちゃん 見てるか！
一応真面目にやっ取るぞー！



アレ…？ テレビゲームとはちがうなあ

【八月】
○教育器材の整備
受精卵移植、コンピュータ利用、乳製品の製造など、新たな技術に対応するため、岡山県の補助を得て次の器材の購入を行った。
低温インキュベーター 一台
恒温水槽 一台
ガス滅菌器 一台
実体顕微鏡 一台
実習用顕微鏡 二台
乳製品製造器具 一式
コンピュータ 二台
コンピュータ一台については、学生が何時でも自由に操作出来るように学生寮に設置した。



右から岩城、1名挟んで元石、甲元

【九月】
○乳牛審査競技会
ホクラク農業協同組合の主催するホクラク乳牛共進会を見学。
当日は、学生乳牛審査競技会もあわせて開催され、日本原、久世の両農業高校と共に本校からも代表者五名が競技に参加した。僅かな時間での審査ではあったが、優秀な成績を収めることができた。
最優秀賞（一位）
岩城 浩（第二四期）
優秀賞（三位）
元石 晴久（第二四期）
優秀賞（四位）
甲元 敬司（第二三期）
（入賞は上位五名）



旧学生寮跡に建てられた木造牛舎

○肥育牛舎の建て替え
古くなった第一牧場の肥育牛舎が取り壊され、新しい木造肥育牛舎が設置された。



ワシャー
あの牛がええと思うんじゃが…

【十月】
○県共進会の見学



実習もないし最高！！

【十一月】
○修学旅行
第二三期生が、能登半島、北陸方面にバスによる三泊四日の修学旅行を行った。
学生最後の旅行を思う存分楽しんだようであるが、最後にはお金も体力も底をついたとか……。

【十二月】
○酪農講演会
津山市で開催された、ホクラク農業協同組合主催の酪農講演会に参加した。
講演内容はフリーストールなど時局に適した話題であり、学生も熱心に聴講していた。

昭和62年度第22期生卒業証書授与者名簿

人の動き

昭和六三年五月一日付けの定期異動で、次のとおり諸先生の異動がありました。

〔退職者〕

次長 植木富士男
(食肉衛生検査所津山駐在所)

〔転出者〕

教育部長 重近文男

転出先 井笠家畜保健衛生所

第二牧場長 森本博之

転出先 真庭家畜保健衛生所

第一牧場技師 馬場 誠

転出先 高粱家畜保健衛生所

〔現職員名簿〕

校長 石田正之

次長 浦上雅道

【総務部】

総務部長 西平佳明

主事 片山賢二

主事 津田清子

主事 池田富幸

主事 道祖タカ

主事 調理技術員

主事 教育部長 長吉 旭

〔教務課〕

教務課長 大塚武宣

技師 秋山俊彦

〔第一牧場〕

技師 北村直起

技師 竹内 崇

技師 樋口照夫

〔第二牧場〕

技師 権代将人

技師 長尾伸一郎

技師 木曾田 繁

技師 三牧孝徳

技師 磯田 博

技師 有富勝仁

技師 助手

お知らせ

本校では例年十一月頃に、大型トラクターによる牽引免許試験を、岡山県運転免許試験場(岡山市郡)において受験しております。

卒業生の皆様で、免許の取得を御希望の方は若干名であればお受けできますので、九月末日までに教務課まで御連絡ください。

なお、受験及び免許交付に必要な経費は、およそ四千元程度となります。